

持続可能な循環型社会への取り組み 再生エネルギー事業

— Renewable Energy Promotion Project —



1

IHQ DEVELOPMENT

従来の炉での処理は4時間でしたが、改良を重ね
 1回の処理が4時間から1時間に短縮でき
 効率を大幅に向上させることが可能と成りました
 旧) 1炉2t ⇒ 4H ⇒ 800ℓ
 新) 5m (3.5t ⇒ 1H ⇒ 1,400ℓ

3

<新型油化プラント>

廃タイヤ油化システム

- (a) チップ化された廃タイヤを原料溶解炉にて溶解。重油を精製機にてA重油以上軽油未満まで精製。
 ※溶解後に出る残渣は廃棄せずスチール カーボンブラックとして販売。
- (b) 廃タイヤと廃プラを同時に溶解炉にて溶解処理。廃プラは発火点が非常に低いため油化事業には不向き。
 これを廃タイヤと同時に処理することにより良質な油分が抽出される。
- (c) 今後大量にゴミとして出て来る太陽光パネル。この太陽光パネルを溶解炉に分解作業することなく投入処理。
 ※溶解後にレアメタルの抽出 パネル残渣である砂は建築資材やガラスの原料として再利用。
 同じ型式の油化プラントにて3通りの処理が可能。

